ビスタラインの景観構造とその実態

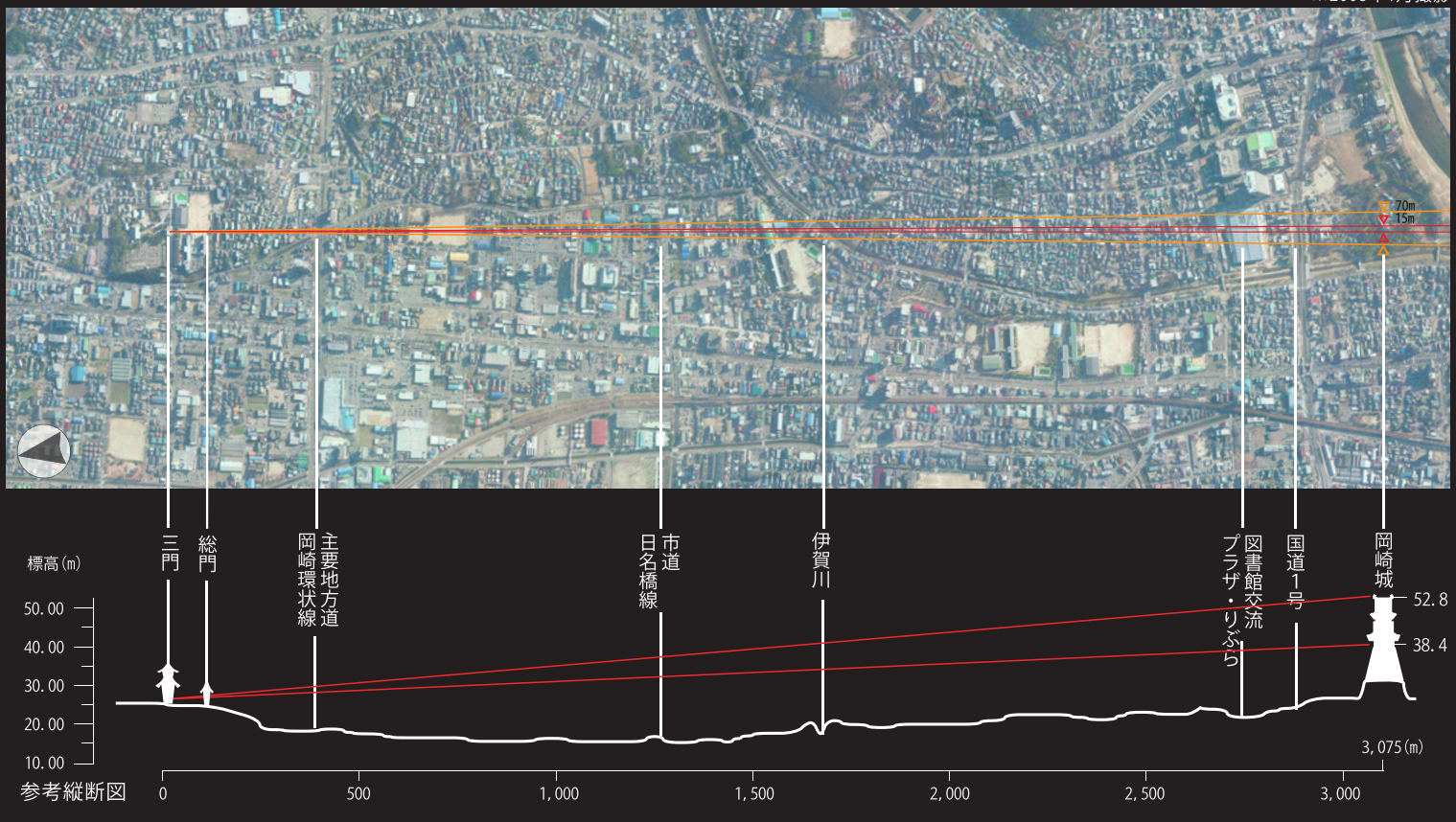
大樹寺上空より岡崎城方面を望む　※2008年11月撮影

ビスタラインは幅約2.5mの総門開口部内に約3km南の岡崎城を眺望する景観です。丘の上に立地する大樹寺と岡崎城の間は緩やかな凹地の地形をなし、三門前を視点場とした場合の水平眺望幅は、視対象である岡崎城天守閣（下図の赤色）で幅約15m、総門開口部領域（下図の橙色）は岡崎城付近で約70mとなり、その眺望距離とあわせて非常に細長い二等辺三角形の眺望空間領域を持つ景観構造となっています。大樹寺、岡崎城、双方の標高差が小さいため、ライン上の建築物の高さによっては、岡崎城への眺望が遮られてしまうおそれがあります。これまでの保全への行政の指導的な取組みは、法的根拠を持たないなどの限界もありましたが、ライン上で生活される方々に、眺望を遮らないような建物等にするなど配慮いただくことで、その眺望が守られてきました。

※視点の高さ：地上1.5m

岡崎城天守閣から大樹寺方向の眺望

※2008年1月撮影



参考縦断図